

平成27年1～3月期結果(確報)の概要

I 今期の概況

1 今期の個人企業（個人経営の事業所）の業況判断D I

① 今期の業況判断

今期（平成27年1～3月期）の業況判断D Iは (-)65.4 で、前期（平成26年10～12月期）(-63.0)に比べ、2.4 ポイントの悪化。

② 来期の見通し

来期（平成27年4～6月期）の業況見通しD Iは (-)59.0 で、今期の業況判断 (-65.4) に比べ、6.4 ポイントの改善の見通し。

図1 業況判断D Iの推移 — 調査産業計 —

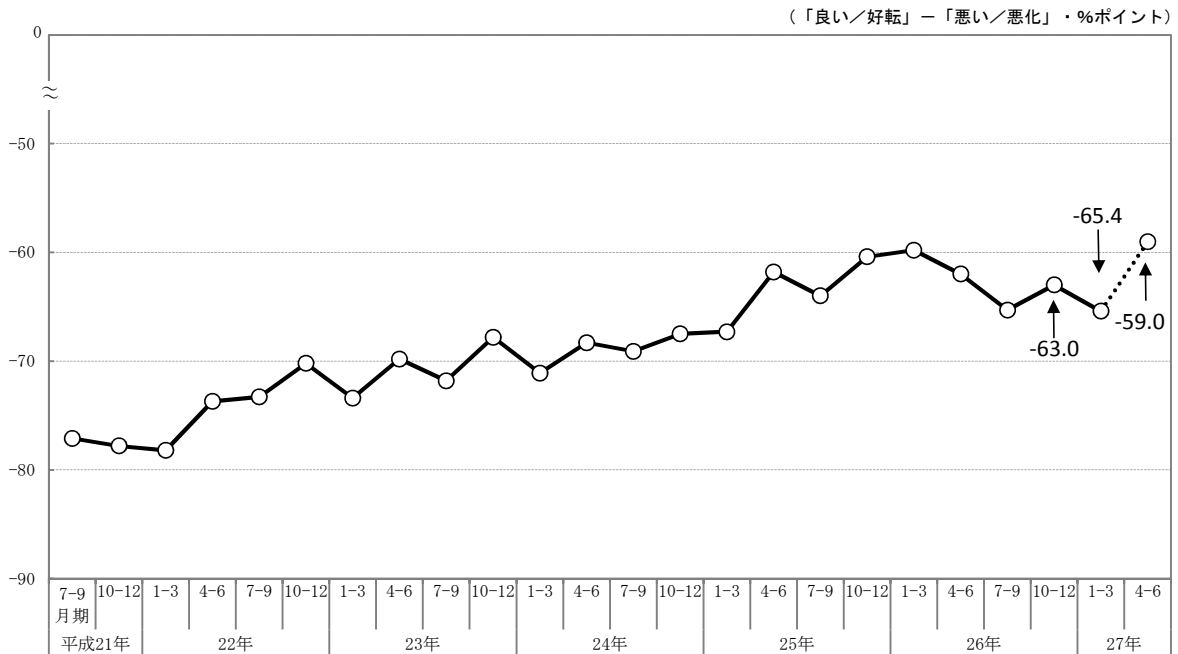


表1 業況判断の割合 — 調査産業計 —

	平成26年				27年		
	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期 見通し	
今期の業況, 来期の業況 (%)							
良い/好転	4.3	3.7	2.9	4.0	3.1	3.1	
普通/不変	31.6	30.6	28.9	29.0	28.4	34.8	
悪い/悪化	64.1	65.7	68.2	67.0	68.5	62.1	
D I	-59.8	-62.0	-65.3	-63.0	-65.4	-59.0	
参考	日銀短観(大企業全産業計)	21	16	13	14	16	14
	中小企業景況調査(全産業計)	-24.7	-27.6	-28.3	-28.1	-29.7	-15.9

(注) 「中小企業景況調査」：(独)中小企業基盤整備機構作成

(注) 今期の調査票回収時期は、平成27年4月上旬から中旬までである。

2 今期の売上高及び営業利益

① 今期の1事業所当たりの売上高は、	
□「製造業」は	218万2000円で、前年同期に比べ、4.8%の減少
□「卸売業、小売業」は	360万1000円で、前年同期に比べ、10.1%の減少
□「宿泊業、飲食サービス業」は	204万2000円で、前年同期に比べ、1.2%の増加
□「サービス業」は	122万7000円で、前年同期に比べ、11.3%の増加
② 今期の1事業所当たりの営業利益は、	
□「製造業」は	59万5000円で、前年同期に比べ、9.0%の減少
□「卸売業、小売業」は	39万4000円で、前年同期に比べ、14.9%の減少
□「宿泊業、飲食サービス業」は	37万3000円で、前年同期に比べ、9.4%の増加
□「サービス業」は	39万5000円で、前年同期に比べ、12.2%の増加

※前年同期(平成26年1～3月期)

表2 産業別売上高及び営業利益

(1事業所当たり)

		製造業		卸売業、小売業		宿泊業、飲食サービス業		サービス業		
		売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	
実数 (千円)	平成25年	1～3月期	2,086	563	3,948	368	2,058	383	1,232	427
		4～6月期	2,183	630	3,932	398	2,087	424	1,405	522
		7～9月期	2,119	651	3,969	446	2,158	433	1,274	437
		10～12月期	2,474	676	4,376	441	2,249	406	1,274	448
	平成26年	1～3月期	2,293	654	4,007	463	2,018	341	1,102	352
		4～6月期	2,131	613	3,981	431	2,154	402	1,210	456
		7～9月期	2,314	626	4,146	370	2,168	420	1,230	433
		10～12月期	2,444	658	4,384	511	2,150	422	1,301	480
	平成27年	1～3月期	2,182	595	3,601	394	2,042	373	1,227	395
	前年同期比 (%)	平成25年	1～3月期	-16.1	-11.1	-0.2	-4.4	4.8	5.5	11.8
4～6月期			-12.5	4.0	-8.1	-4.1	0.0	21.8	16.7	16.8
7～9月期			-9.1	6.4	-5.5	3.0	-0.3	22.3	8.8	5.0
10～12月期			-7.8	-11.6	-1.2	1.4	2.7	4.1	-1.3	-3.2
平成26年		1～3月期	9.9	16.2	1.5	25.8	-1.9	-11.0	-10.6	-17.6
		4～6月期	-2.4	-2.7	1.2	8.3	3.2	-5.2	-13.9	-12.6
		7～9月期	9.2	-3.8	4.5	-17.0	0.5	-3.0	-3.5	-0.9
		10～12月期	-1.2	-2.7	0.2	15.9	-4.4	3.9	2.1	7.1
平成27年		1～3月期	-4.8	-9.0	-10.1	-14.9	1.2	9.4	11.3	12.2

3 今期の設備投資額

① 今期の1事業所当たりの設備投資額は、	
□「製造業」は	11万1000円で、前年同期(11万6000円)に比べ、減少
□「卸売業、小売業」は	10万9000円で、前年同期(8万3000円)に比べ、増加
□「宿泊業、飲食サービス業」は	4万7000円で、前年同期(8万7000円)に比べ、減少
□「サービス業」は	3万7000円で、前年同期(7万3000円)に比べ、減少
② 今期の1事業所当たりの設備投資率(売上高に対する設備投資額の割合)は、	
□「製造業」は	5.1%で、前年同期(5.1%)と同率
□「卸売業、小売業」は	3.0%で、前年同期(2.1%)に比べ、0.9ポイントの上昇
□「宿泊業、飲食サービス業」は	2.3%で、前年同期(4.3%)に比べ、2.0ポイントの低下
□「サービス業」は	3.0%で、前年同期(6.6%)に比べ、3.6ポイントの低下

※前年同期(平成26年1～3月期)

表3 産業別設備投資額及び設備投資率

(1事業所当たり)

		製造業		卸売業、小売業		宿泊業、飲食サービス業		サービス業	
		設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)	設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)	設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)	設備投資額 (千円)	設備投資率 (%)
平成25年	1～3月期	65	3.1	100	2.5	64	3.1	125	10.1
	4～6月期	56	2.6	118	3.0	59	2.8	63	4.5
	7～9月期	139	6.6	81	2.0	78	3.6	45	3.5
	10～12月期	122	4.9	89	2.0	89	4.0	44	3.5
平成26年	1～3月期	116	5.1	83	2.1	87	4.3	73	6.6
	4～6月期	85	4.0	68	1.7	45	2.1	75	6.2
	7～9月期	104	4.5	85	2.1	77	3.6	40	3.3
	10～12月期	78	3.2	89	2.0	118	5.5	43	3.3
平成27年	1～3月期	111	5.1	109	3.0	47	2.3	37	3.0

Ⅱ 業況判断

1 調査産業計

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成27年1～3月期）の業況判断D Iは（-）65.4で、前期（平成26年10～12月期）（-63.0）に比べ、2.4ポイント悪化した。

イ 前期と比較した業況判断D Iは（-）56.1で、前期（-45.1）に比べ、11.0ポイント悪化した。

ウ 前年同期（平成26年1～3月期）と比較した業況判断D Iは（-）56.1で、前期（-56.1）から横ばいとなった。

② 来期の業況見通し

来期（平成27年4～6月期）の業況見通しD Iは（-）59.0で、今期の業況判断（-65.4）に比べ、6.4ポイントの改善の見通しとなっている。

図2 業況判断D Iの推移 —調査産業計—

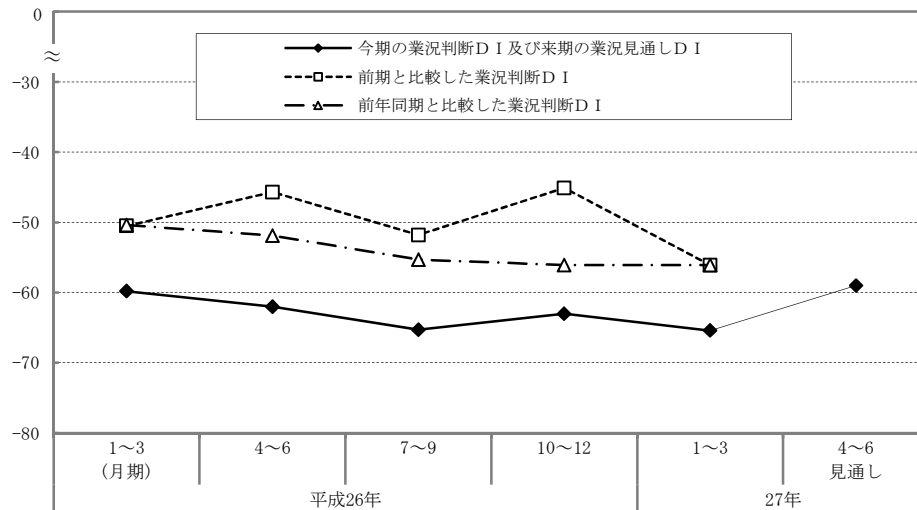
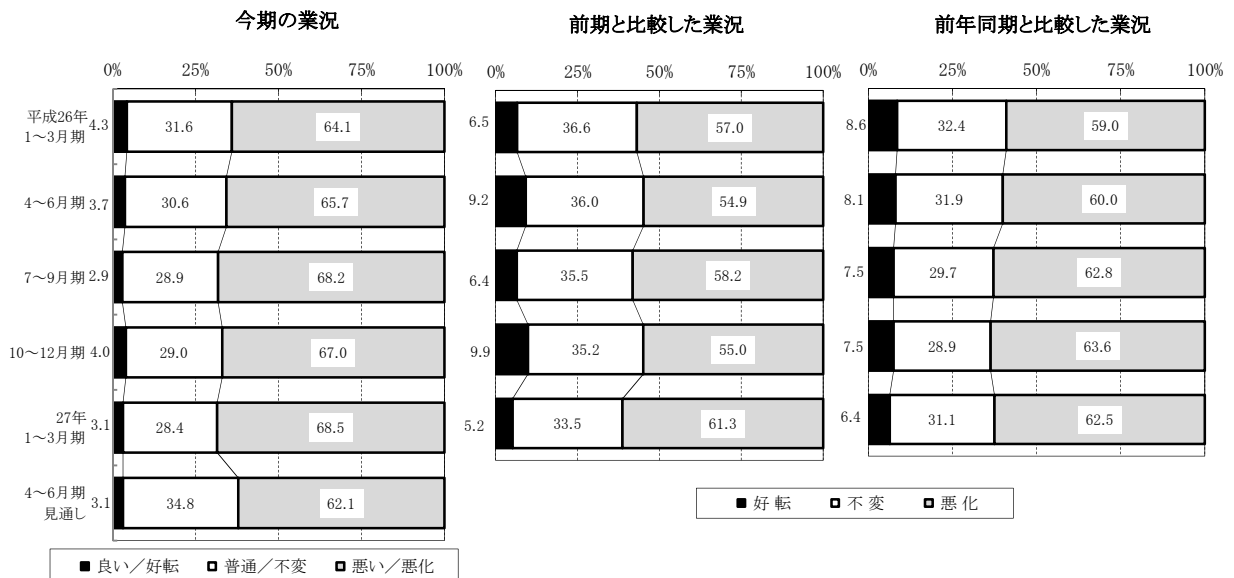


図3 業況判断の割合 —調査産業計—



(2) 売上の状況

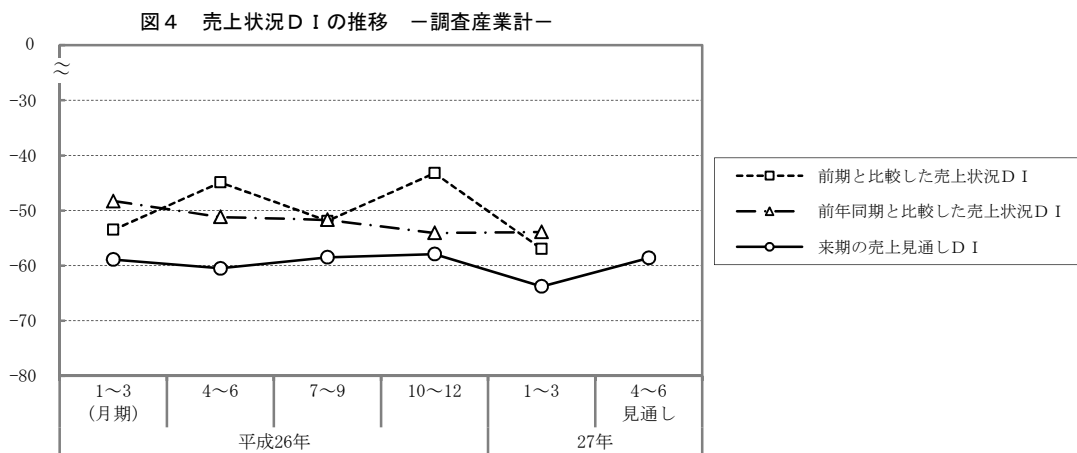
① 今期の売上の状況

ア 前期と比較した売上状況DIは (-)57.0 で、前期 (-43.2) に比べ、13.8 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは (-)53.9 で、前期 (-54.1) に比べ、0.2 ポイント改善した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは (-)58.6 で、前期における今期の売上見通し (-63.8) に比べ、5.2 ポイントの改善の見通しとなっている。



(3) 営業利益の状況

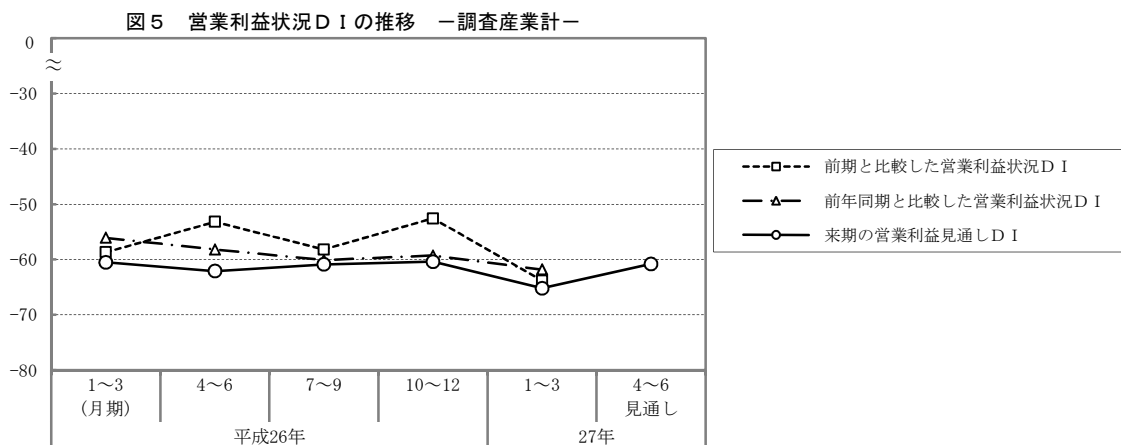
① 今期の営業利益の状況

ア 前期と比較した営業利益状況DIは (-)63.8 で、前期 (-52.6) に比べ、11.2 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは (-)61.8 で、前期 (-59.3) に比べ、2.5 ポイント悪化した。

② 来期の営業利益見通し

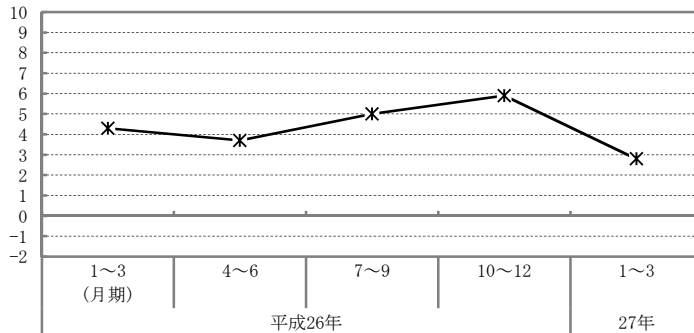
来期の営業利益見通しDIは (-)60.8 で、前期における今期の営業利益見通し (-65.2) に比べ、4.4ポイントの改善の見通しとなっている。



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは (+)2.8 で、前期 (+5.9) に比べ、3.1ポイント「過剰」が縮小した。

図6 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 -調査産業計-

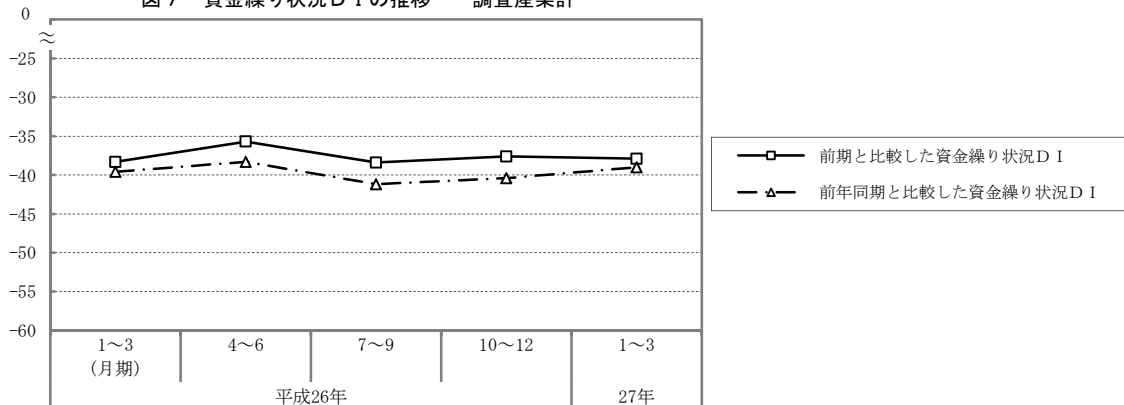


(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは (-)37.9 で、前期 (-37.6) に比べ、0.3ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは (-)39.0 で、前期 (-40.4) に比べ、1.4ポイント改善した。

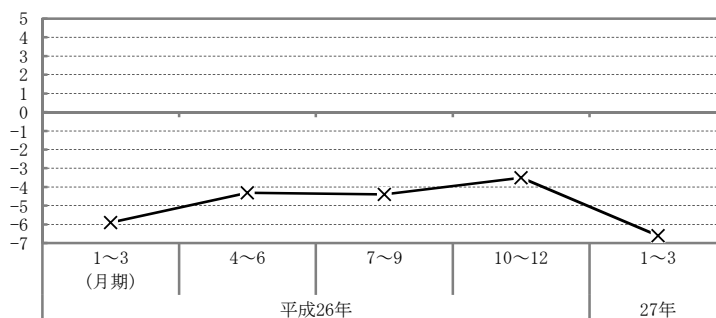
図7 資金繰り状況DIの推移 -調査産業計-



(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは (-)6.6 で、前期 (-3.5) に比べ、3.1ポイント「不足」が拡大した。

図8 雇用状況DIの推移 -調査産業計-



2 製造業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成27年1～3月期）の業況判断DIは(-)58.3で、前期（平成26年10～12月期）(-44.2)に比べ、14.1ポイント悪化した。

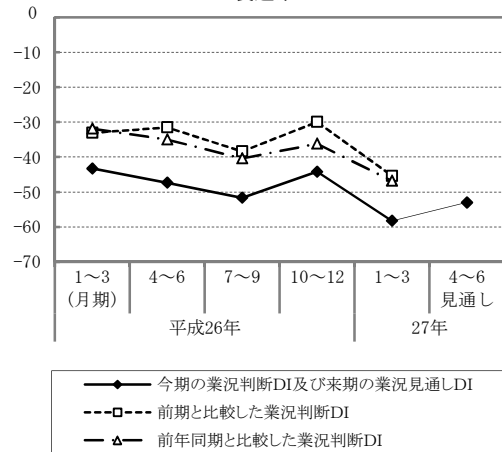
イ 前期と比較した業況判断DIは(-)45.4で、前期(-30.0)に比べ、15.4ポイント悪化した。

ウ 前年同期（平成26年1～3月期）と比較した業況判断DIは(-)46.8で、前期(-36.2)に比べ、10.6ポイント悪化した。

② 来期の業況見通し

来期（平成27年4～6月期）の業況見通しDIは(-)53.0で、今期の業況判断(-58.3)に比べ、5.3ポイントの改善の見通しとなっている。

図9 業況判断DIの推移
—製造業—



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

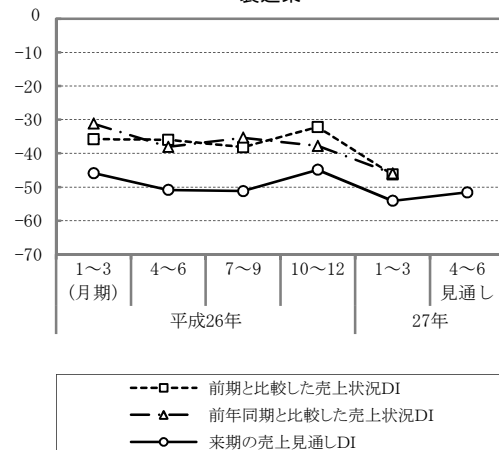
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)46.3で、前期(-32.2)に比べ、14.1ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)46.0で、前期(-37.8)に比べ、8.2ポイント悪化した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)51.6で、前期における今期の売上見通し(-54.1)に比べ、2.5ポイントの改善の見通しとなっている。

図10 売上状況DIの推移
—製造業—



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

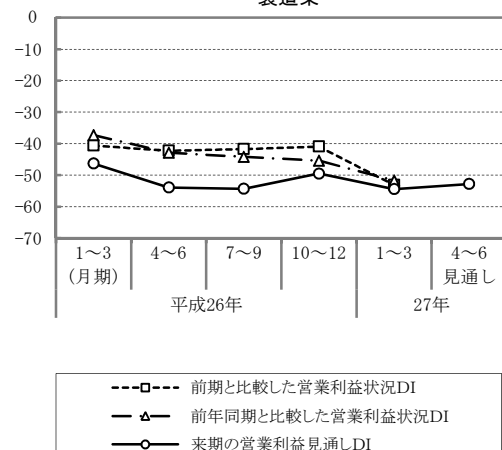
ア 前期と比較した営業利益状況DIは(-)53.1で、前期(-40.9)に比べ、12.2ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは(-)51.7で、前期(-45.4)に比べ、6.3ポイント悪化した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは(-)52.8で、前期における今期の営業利益見通し(-54.4)に比べ、1.6ポイントの改善の見通しとなっている。

図11 営業利益状況DIの推移
—製造業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは (+)1.8 で、前期 (+4.4) に比べ、2.6 ポイントト「過剰」が縮小した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは (-)29.7 で、前期 (-28.9) に比べ、0.8 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは (-)30.4 で、前期 (-32.1) に比べ、1.7 ポイント改善した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは (-)6.2 で、前期 (-3.3) に比べ、2.9 ポイント「不足」が拡大した。

図12 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 -製造業-

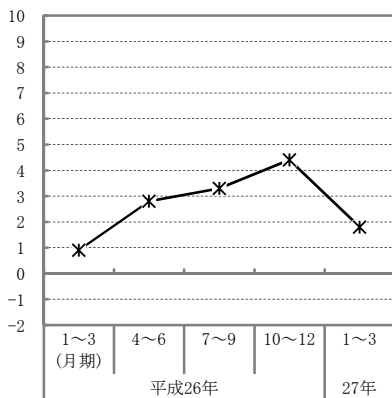


図13 資金繰り状況DIの推移 -製造業-

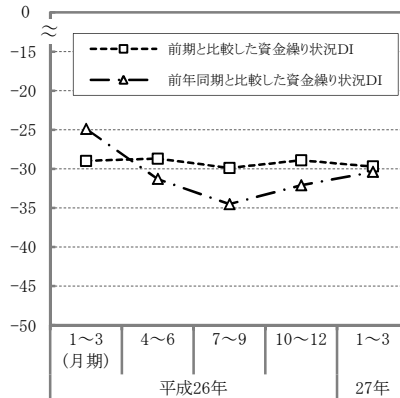
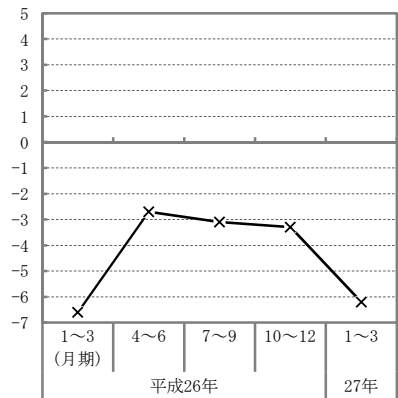


図14 雇用状況DIの推移 -製造業-



3 卸売業、小売業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成27年1～3月期）の業況判断DIは (-)68.5 で、前期（平成26年10～12月期） (-69.6) に比べ、1.1 ポイント改善した。

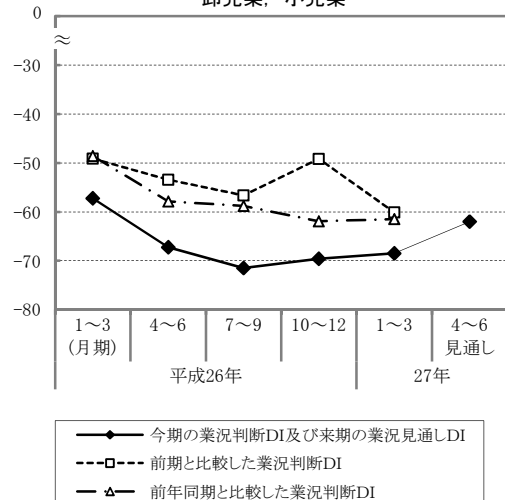
イ 前期と比較した業況判断DIは (-)60.1 で、前期 (-49.2) に比べ、10.9 ポイント悪化した。

ウ 前年同期（平成26年1～3月期）と比較した業況判断DIは (-)61.5 で、前期 (-61.9) に比べ、0.4 ポイント改善した。

② 来期の業況見通し

来期（平成27年4～6月期）の業況見通しDIは (-)62.0 で、今期の業況判断 (-68.5) に比べ、6.5 ポイントの改善の見通しとなっている。

図15 業況判断DIの推移 -卸売業、小売業-



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

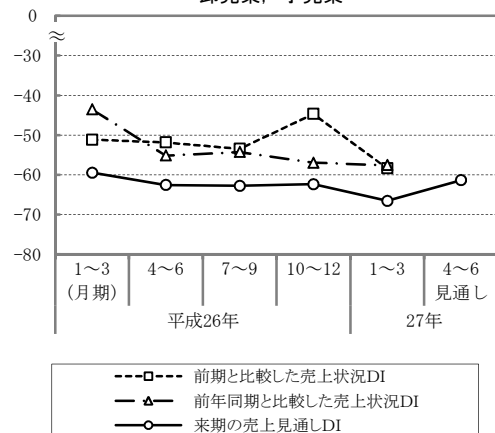
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)58.4で、前期(-44.7)に比べ、13.7ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)57.6で、前期(-57.0)に比べ、0.6ポイント悪化した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)61.4で、前期における今期の売上見通し(-66.6)に比べ、5.2ポイントの改善の見通しとなっている。

図16 売上状況DIの推移
—卸売業、小売業—



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

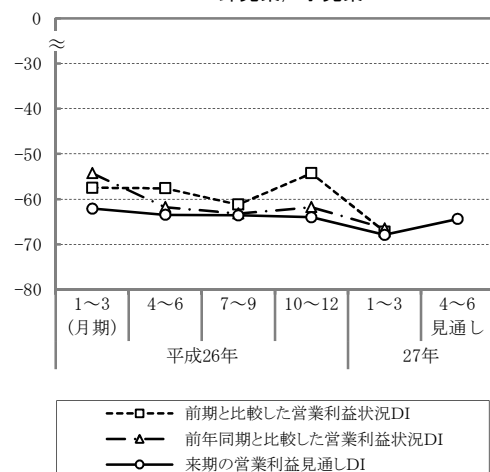
ア 前期と比較した営業利益状況DIは(-)67.2で、前期(-54.3)に比べ、12.9ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは(-)66.5で、前期(-61.8)に比べ、4.7ポイント悪化した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは(-)64.4で、前期における今期の営業利益見通し(-67.9)に比べ、3.5ポイントの改善の見通しとなっている。

図17 営業利益状況DIの推移
—卸売業、小売業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは(+)7.6で、前期(+10.2)に比べ、2.6ポイント「過剰」が縮小した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは(-)38.1で、前期(-38.7)に比べ、0.6ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは(-)39.7で、前期(-42.0)に比べ、2.3ポイント改善した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは(-)6.0で、前期(-3.1)に比べ、2.9ポイント「不足」が拡大した。

図18 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 -卸売業、小売業-

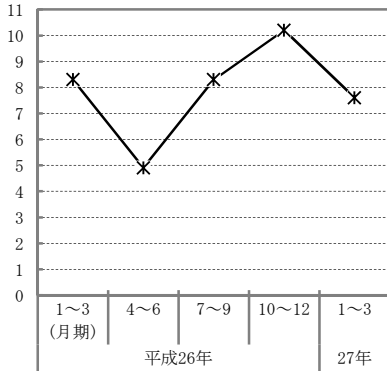


図19 資金繰り状況DIの推移 -卸売業、小売業-

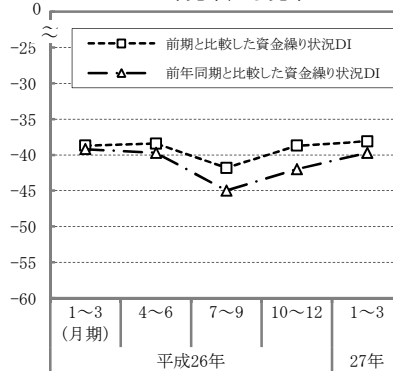
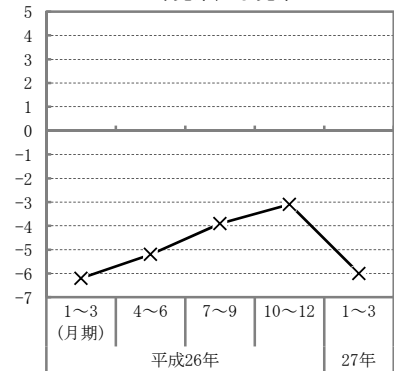


図20 雇用状況DIの推移 -卸売業、小売業-



4 宿泊業、飲食サービス業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成27年1～3月期）の業況判断DIは(-)56.6で、前期（平成26年10～12月期）(-58.4)に比べ、1.8ポイント改善した。

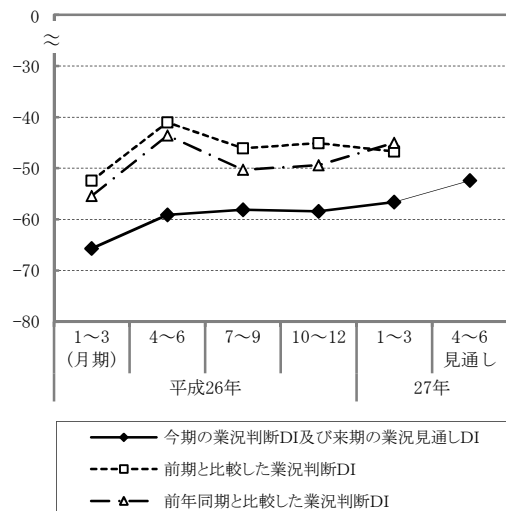
イ 前期と比較した業況判断DIは(-)46.7で、前期(-45.1)に比べ、1.6ポイント悪化した。

ウ 前年同期（平成26年1～3月期）と比較した業況判断DIは(-)45.0で、前期(-49.4)に比べ、4.4ポイント改善した。

② 来期の業況見通し

来期（平成27年4～6月期）の業況見通しDIは(-)52.4で、今期の業況判断(-56.6)に比べ、4.2ポイントの改善の見通しとなっている。

図21 業況判断DIの推移 -宿泊業、飲食サービス業-



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

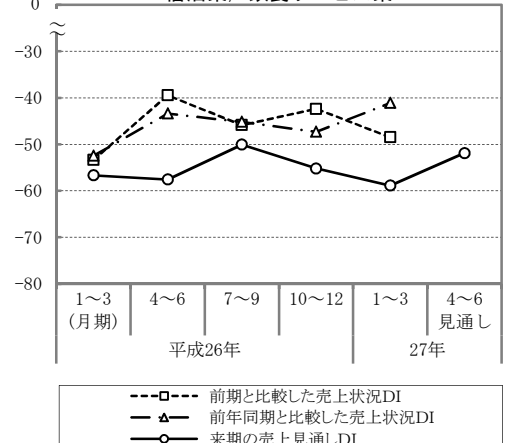
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)48.5で、前期(-42.4)に比べ、6.1ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)41.1で、前期(-47.3)に比べ、6.2ポイント改善した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)51.9で、前期における今期の売上見通し(-58.9)に比べ、7.0ポイントの改善の見通しとなっている。

図22 売上状況DIの推移 -宿泊業、飲食サービス業-



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

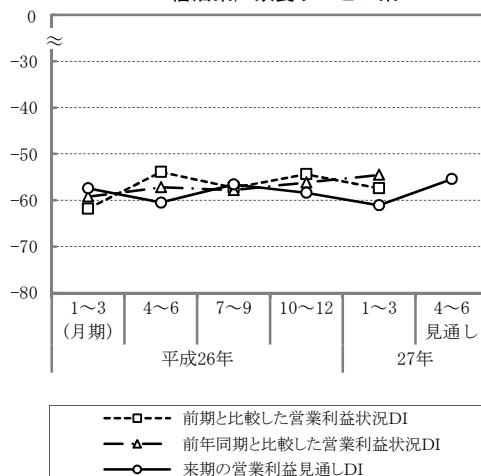
ア 前期と比較した営業利益状況DIは (-)57.4 で、前期 (-54.4) に比べ、3.0ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは (-)54.5 で、前期 (-56.2) に比べ、1.7ポイント改善した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは (-)55.4 で、前期における今期の営業利益見通し (-61.1) に比べ、5.7ポイントの改善の見通しとなっている。

図23 営業利益状況DIの推移
—宿泊業、飲食サービス業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは (-)2.6 で、前期 (+2.0) に比べ、4.6ポイント「不足」が拡大した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは (-)41.4 で、前期 (-41.8) に比べ、0.4ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは (-)42.3 で、前期 (-43.3) に比べ、1.0ポイント改善した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは (-)13.1 で、前期 (-6.6) に比べ、6.5ポイント「不足」が拡大した。

図24 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移
—宿泊業、飲食サービス業—

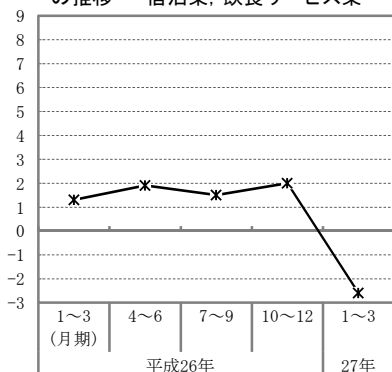


図25 資金繰り状況DIの推移
—宿泊業、飲食サービス業—

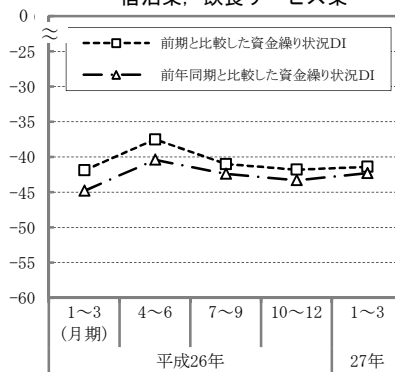
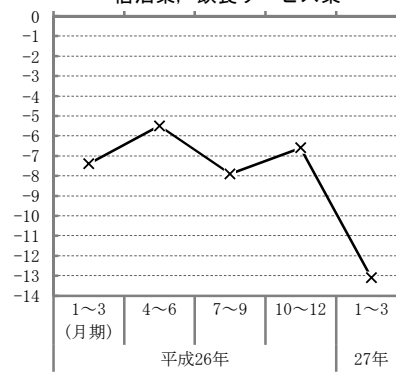


図26 雇用状況DIの推移
—宿泊業、飲食サービス業—



5 サービス業

(1) 業況

① 今期の業況

ア 今期（平成27年1～3月期）の業況判断DIは(-)70.3で、前期（平成26年10～12月期）(-65.5)に比べ、4.8ポイント悪化した。

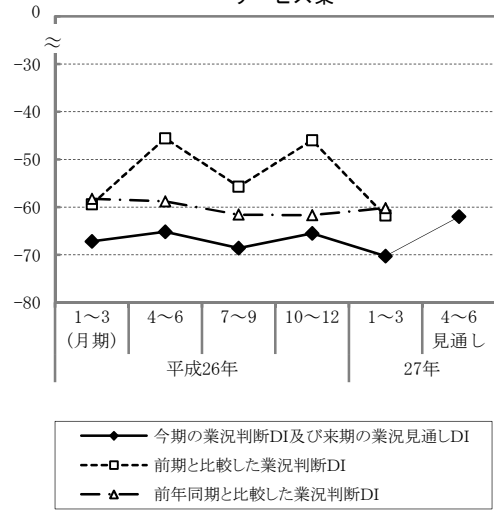
イ 前期と比較した業況判断DIは(-)61.8で、前期(-46.0)に比べ、15.8ポイント悪化した。

ウ 前年同期（平成26年1～3月期）と比較した業況判断DIは(-)60.2で、前期(-61.7)に比べ、1.5ポイント改善した。

② 来期の業況見通し

来期（平成27年4～6月期）の業況見通しDIは(-)62.0で、今期の業況判断(-70.3)に比べ、8.3ポイントの改善の見通しとなっている。

図27 業況判断DIの推移
—サービス業—



(2) 売上の状況

① 今期の売上の状況

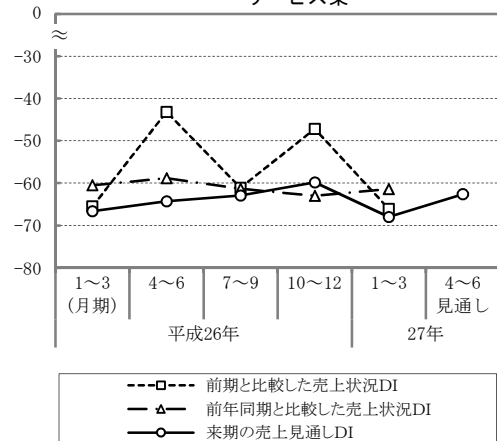
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)66.1で、前期(-47.2)に比べ、18.9ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)61.4で、前期(-63.0)に比べ、1.6ポイント改善した。

② 来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)62.6で、前期における今期の売上見通し(-68.0)に比べ、5.4ポイントの改善の見通しとなっている。

図28 売上状況DIの推移
—サービス業—



(3) 営業利益の状況

① 今期の営業利益の状況

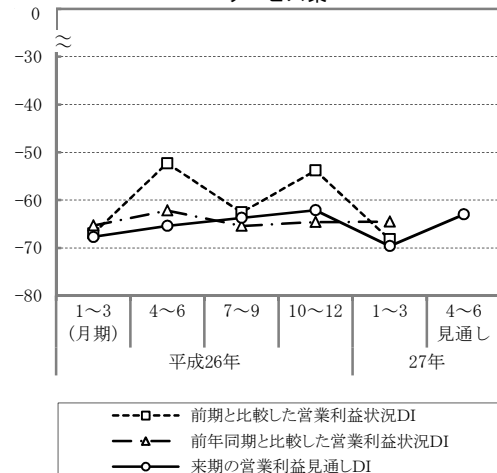
ア 前期と比較した営業利益状況DIは(-)68.2で、前期(-53.8)に比べ、14.4ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは(-)64.5で、前期(-64.6)に比べ、0.1ポイント改善した。

② 来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは(-)63.0で、前期における今期の営業利益見通し(-69.6)に比べ、6.6ポイントの改善の見通しとなっている。

図29 営業利益状況DIの推移
—サービス業—



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは (+)0.1 で、前期 (+2.8) に比べ、2.7 ポイント「過剰」が縮小した。

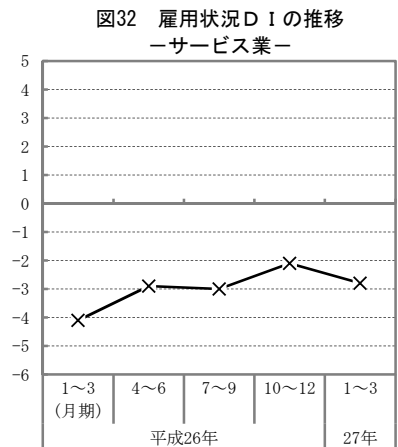
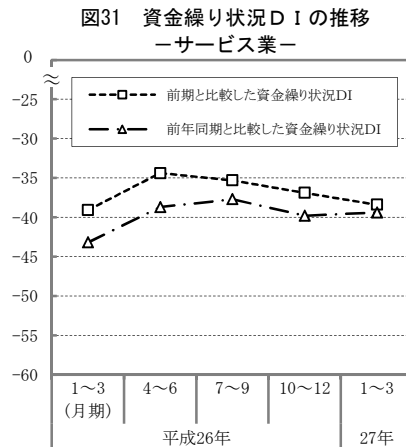
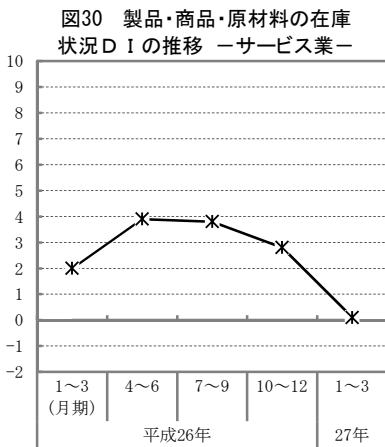
(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは (-)38.4 で、前期 (-36.9) に比べ、1.5 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは (-)39.4 で、前期 (-39.8) に比べ、0.4 ポイント改善した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは (-)2.8 で、前期 (-2.1) に比べ、0.7 ポイント「不足」が拡大した。



Ⅲ 営業収支

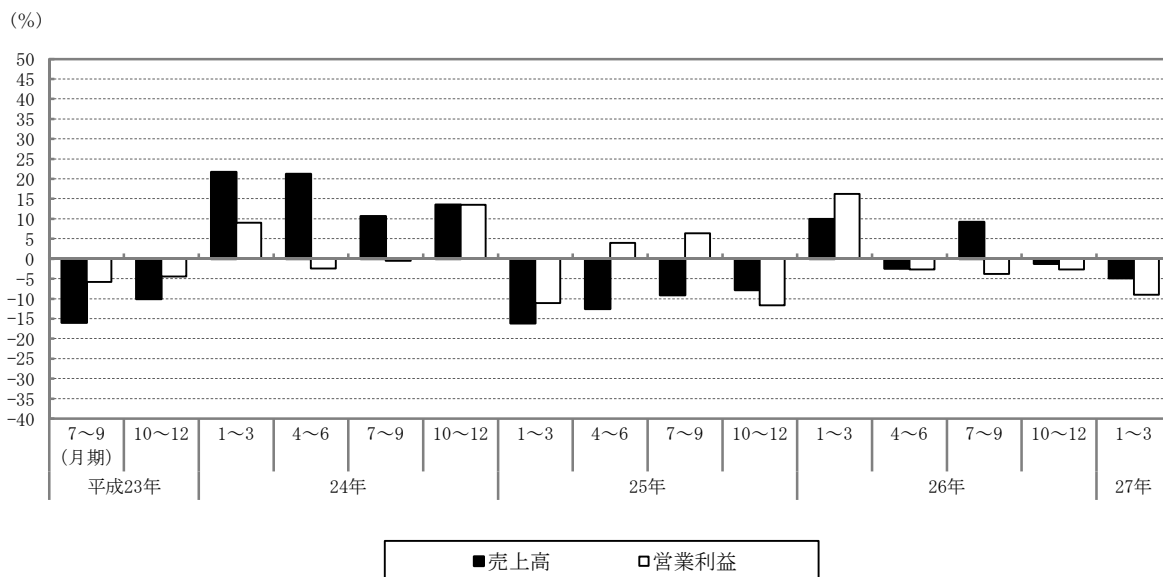
1 製造業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は218万2000円で、これに対する費用は売上原価が69万4000円、営業費が89万3000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は59万5000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(-)4.8%で、2期連続で減少した。また、営業利益は(-)9.0%で、4期連続で減少した。

図33 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 - 製造業 -

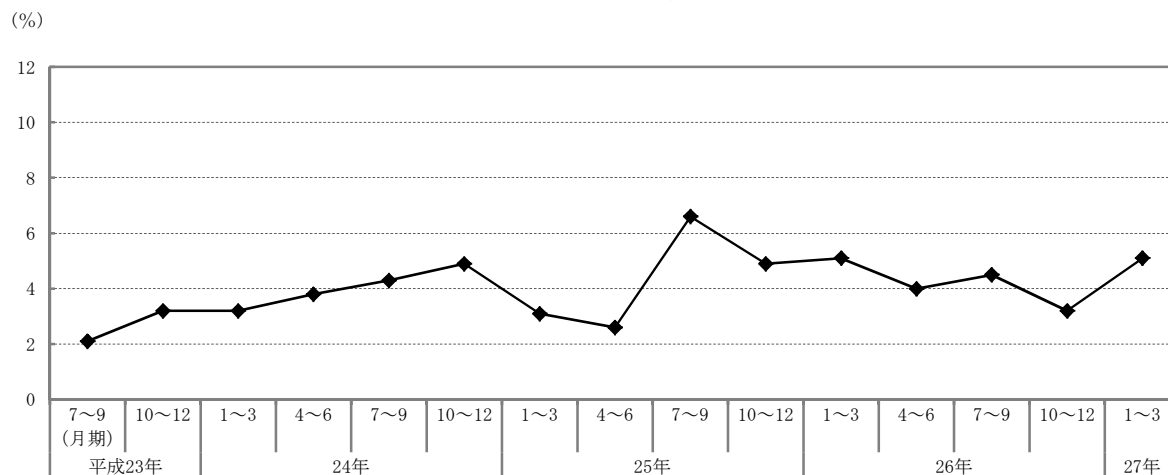


(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は11万1000円で、前年同期(11万6000円)を下回った。

また、設備投資率(売上高に対する設備投資額の割合)は5.1%で、前年同期(5.1%)と同率となった。

図34 設備投資率の推移 - 製造業 -



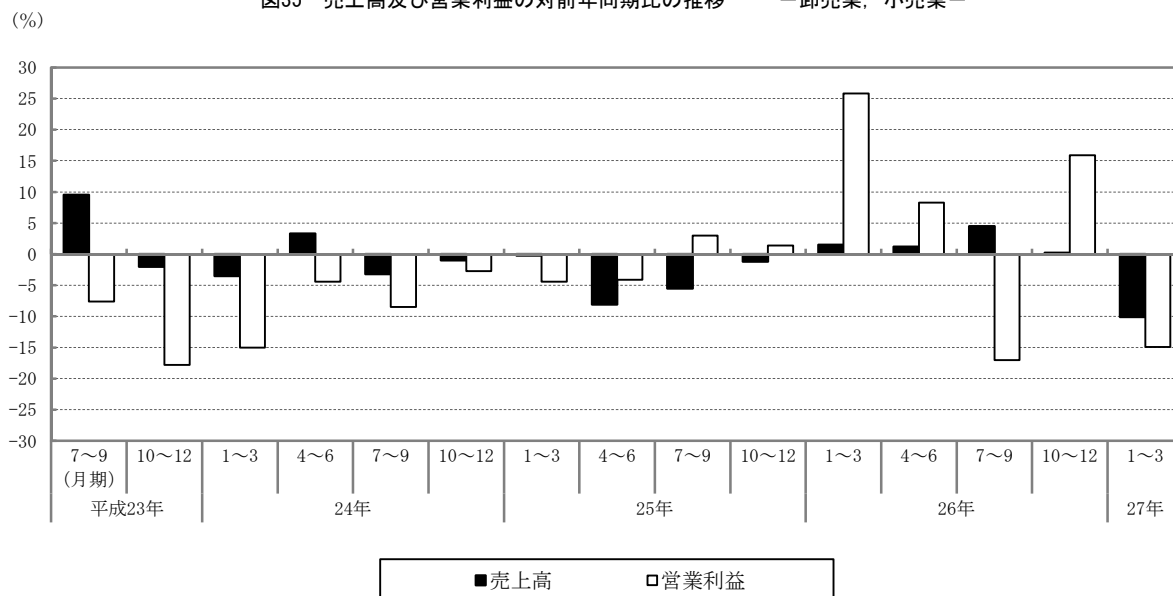
2 卸売業、小売業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は360万1000円で、これに対する費用は売上原価が242万円、営業費が78万8000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は39万4000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(-)10.1%で、5期ぶりに減少した。また、営業利益は(-)14.9%で、2期ぶりに減少した。

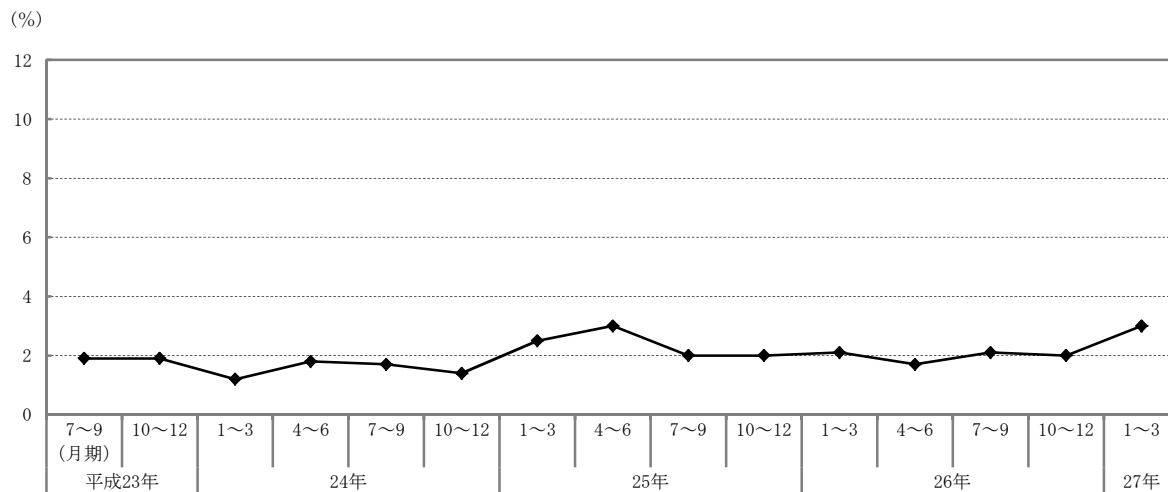
図35 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 —卸売業、小売業—



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は10万9000円で、前年同期(8万3000円)を上回った。また、設備投資率は3.0%で、前年同期(2.1%)を0.9ポイント上回った。

図36 設備投資率の推移 —卸売業、小売業—

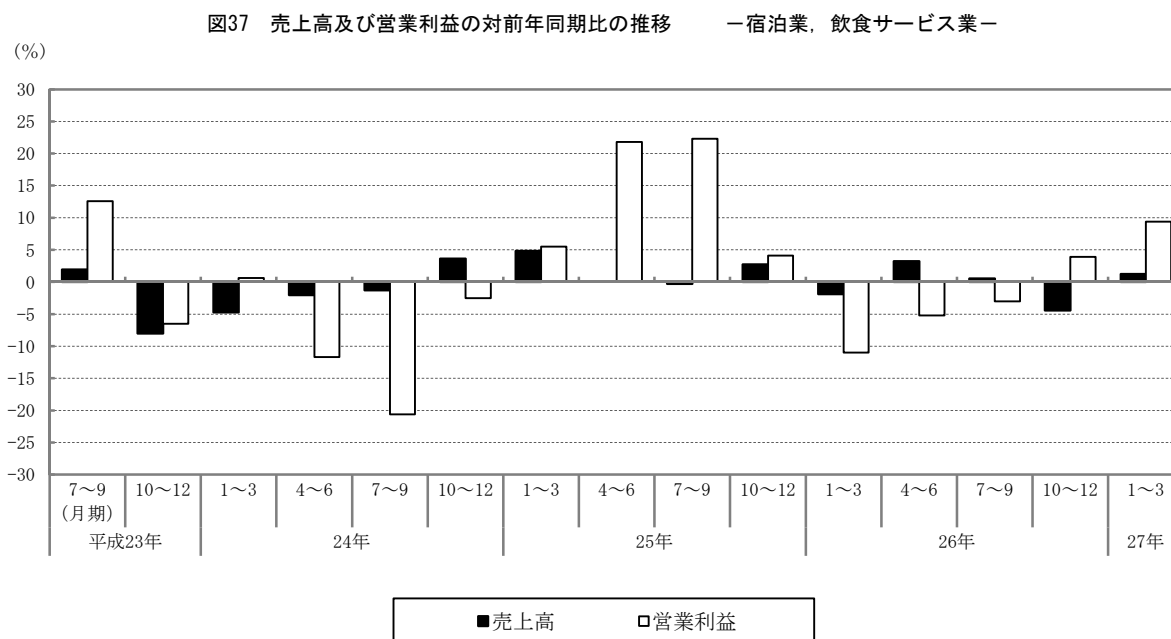


3 宿泊業，飲食サービス業

(1) 売上高及び営業利益

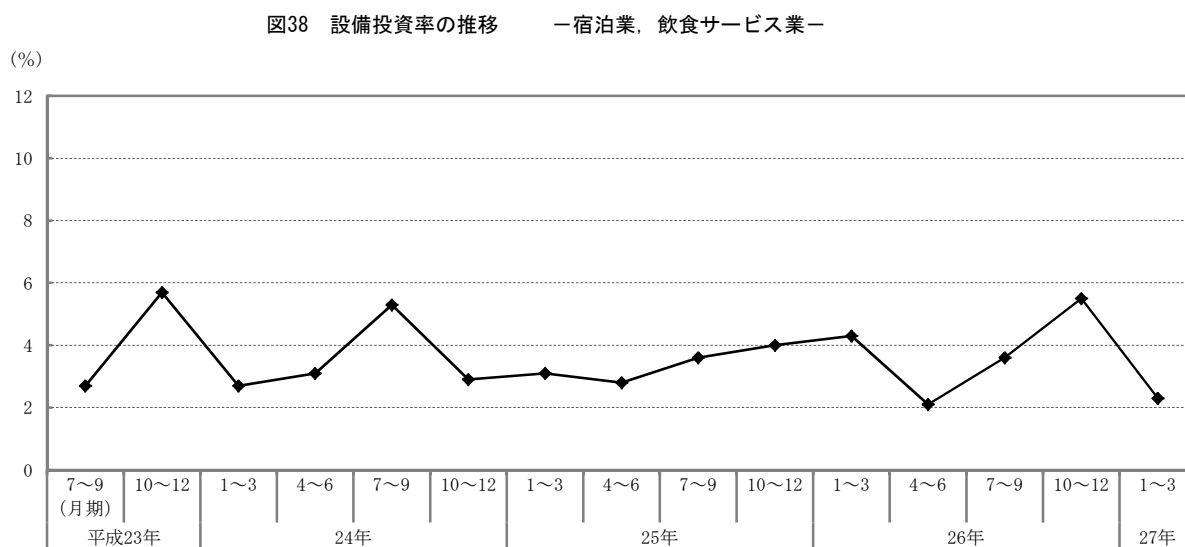
今期の1事業所当たりの売上高は204万2000円で、これに対する費用は売上原価が84万4000円、営業費が82万5000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は37万3000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(+) 1.2% で、2期ぶりに増加した。また、営業利益は(+) 9.4% で、2期連続で増加した。



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は4万7000円で、前年同期(8万7000円)を下回った。また、設備投資率は 2.3% で、前年同期(4.3%)を2.0ポイント下回った。



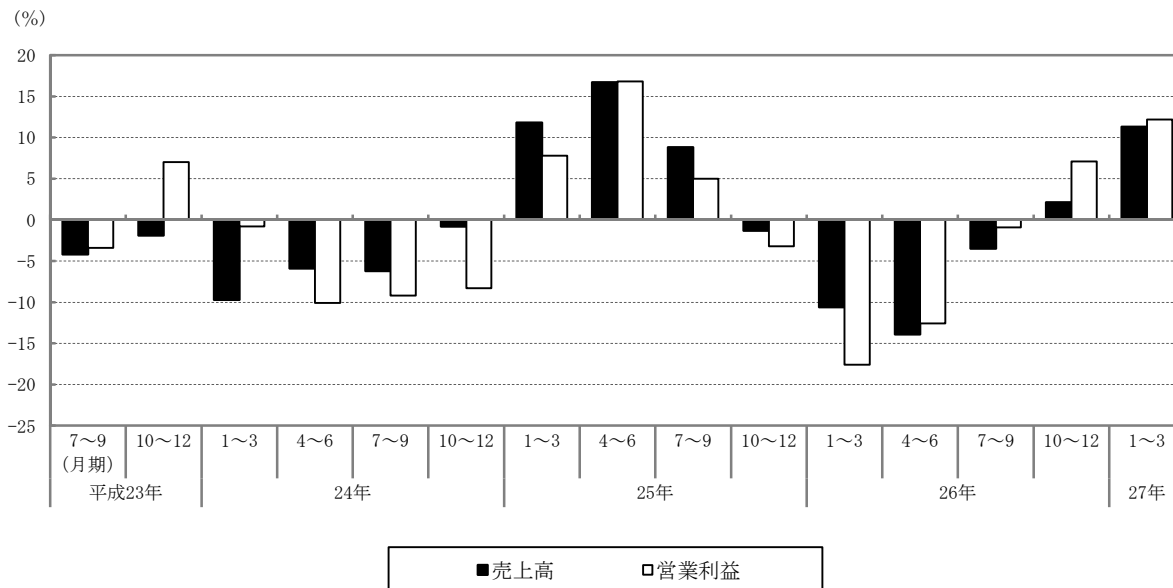
4 サービス業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は122万7000円で、これに対する費用は売上原価が23万3000円、営業費が60万円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は39万5000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(+) 11.3% で、2期連続で増加した。また、営業利益は(+) 12.2% で、2期連続で増加した。

図39 売上高及び営業利益の対前年同期比の推移 -サービス業-



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は3万7000円で、前年同期(7万3000円)を下回った。また、設備投資率は 3.0% で、前年同期(6.6%)を3.6ポイント下回った。

図40 設備投資率の推移 -サービス業-

